

平成 17 年度病院事業会計決算(見込み)の概要について

1. 概 況

千葉県では、県民の健康保持に必要な医療を提供するため、高度・特殊な専門医療を取り扱う 4 病院（がんセンター・救急医療センター・精神科医療センター・こども病院）、地域における中核医療と循環器に関する高度・特殊な専門医療を行う循環器病センター及び地域の中核医療を行う 2 病院（東金病院・佐原病院）の県立 7 病院を設置しており、地方公営企業法全部適用の事業として千葉県病院局が管理・運営を行っている。

平成 17 年度は、前年度に策定した「千葉県病院局中期経営計画」に沿い、県民及び患者の視点に立ち、県立病院の果たすべき役割を明確にしながら、患者サービス及び医療の質を向上させ、経営健全化を着実に実施していくことに努めたところである。

施設面の整備としては、循環器病センター新治療棟の建設工事及びこの開業に併せた MRI を設置したほか、がんセンターに病院情報システム（いわゆる電子カルテ）を導入した。

2. 取扱患者数の状況

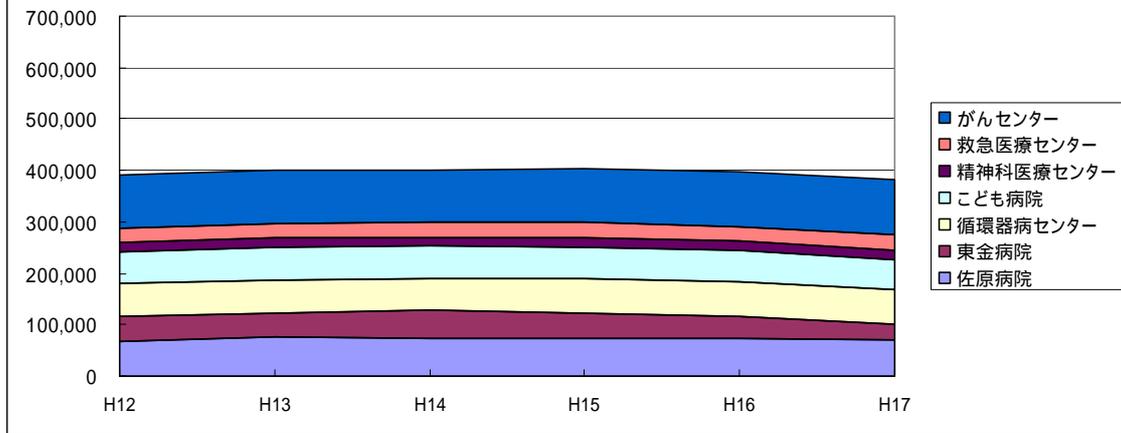
- (1) 入院患者については、延べ患者数が 38 万 3,011 人で、前年度と比較し、1 万 3,804 人減少した。（新入院患者数は、21,824 人で、前年度よりも 864 人増加）
- (2) 外来患者については、延べ患者数が 56 万 8,213 人で、前年度と比較し、1 万 4,872 人減少した。

取扱患者数

(単位：人)

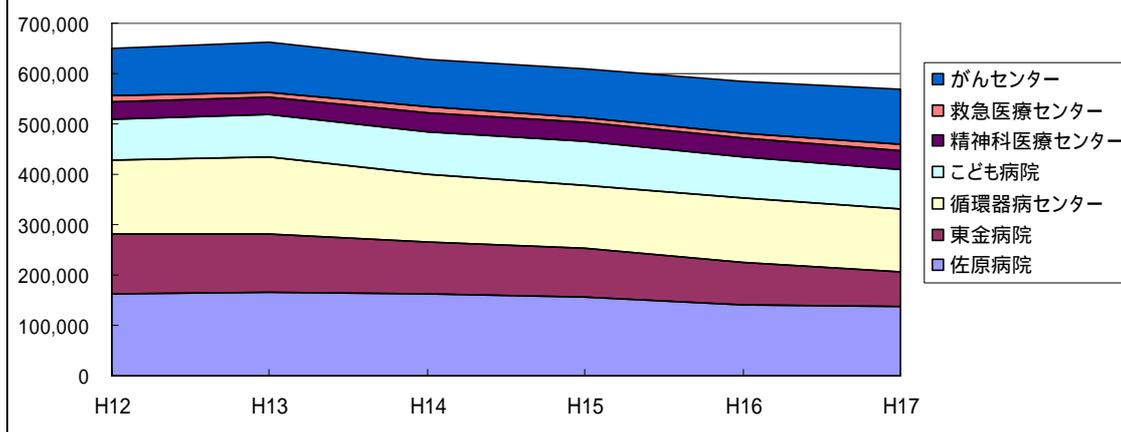
区 分	平成 17 年度	平成 16 年度	増減
延べ入院患者数	383,011	396,815	13,804
うち新患者数	21,824	20,960	864
延べ外来患者数	568,213	583,085	14,872

入院患者数の推移



	H12	H13	H14	H15	H16	H17
がんセンター	102,380	102,904	100,453	104,858	105,154	108,062
救急医療センター	28,645	29,178	29,512	29,376	30,198	29,458
精神科医療センター	17,289	17,678	17,773	17,597	17,775	17,894
こども病院	62,330	64,108	61,477	62,866	61,107	60,269
循環器病センター	62,094	64,308	62,739	64,753	65,492	65,223
東金病院	49,358	44,399	53,308	48,894	43,353	31,677
佐原病院	68,030	77,015	74,773	74,661	73,736	70,428
計	390,126	399,590	400,035	403,005	396,815	383,011

外来患者数の推移



	H12	H13	H14	H15	H16	H17
がんセンター	93,236	99,292	94,226	97,308	101,226	110,379
救急医療センター	10,178	10,389	10,488	9,393	9,804	9,463
精神科医療センター	34,819	34,909	37,686	37,336	37,173	37,812
こども病院	82,828	85,157	85,544	86,267	80,462	78,828
循環器病センター	147,257	152,329	132,836	125,646	129,106	124,687
東金病院	118,759	115,338	105,365	97,218	84,660	69,216
佐原病院	161,545	165,518	161,247	155,879	140,654	137,828
計	648,622	662,932	627,392	609,047	583,085	568,213

3 経営状況

(1) 収益的収支の状況

収益的収支とは、当該年度の経営活動に伴い発生する収支であり、病院事業の場合は医業収支、医業外収支などである。

医業収支は81億6,300万円の損失となったが、前年度との比較では損失額は8億1,700万円減少した。

その理由は、医業収益において、入院収益が減少したものの外来収益が増加したことで2,200万円増加し、また医業費用において、給与費が退職給与金の減及び給料の削減措置のなどにより6億1,600万円減少、材料費が共同購入の推進などの効果により1億6,200万円減少、減価償却費が循環器病センターのオープン時に整備した医療機器や、こども病院開設時の給排水設備などが前年度で償却を終えたことなどにより2億1,600万円減少したことなどで合計7億9,500万円減少したことによる。

一方、医業外収支は68億2,100万円となり、前年度との比較では一般会計からの負担金交付金が1億7,900万円減少したことなどから1億5,000万円減少した。

これにより経常収支は13億4,200万円の損失となったが、前年度との比較では6億6,700万円の改善となった。

なお、16年度は、固定資産の精査を行い、現物と帳簿との差異の解消などのため特別損益として4億4,100万円 特別利益1,000万円、特別損失4億5,100万円 を計上したところであるが、17年度においては、これがないため、特別損益が大きく減少している。

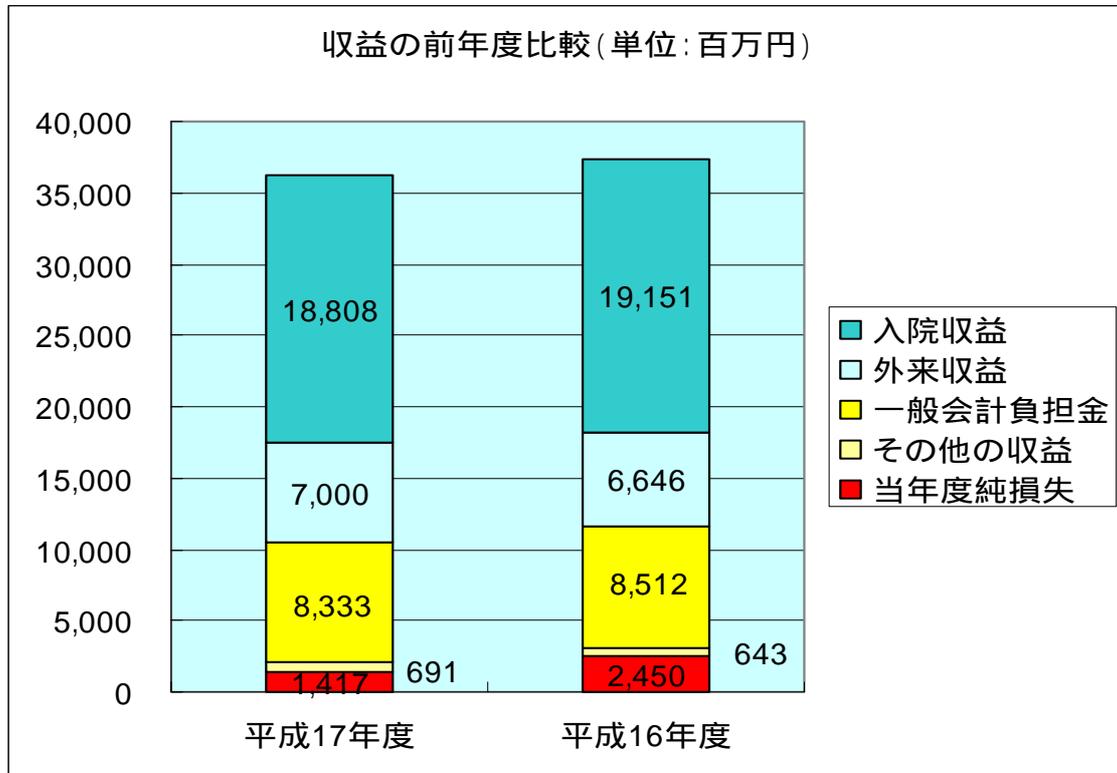
この結果、当年度欠損金は14億1,700万円となり、前年度と比較すると10億3,300万円の改善となった。

収益的収支

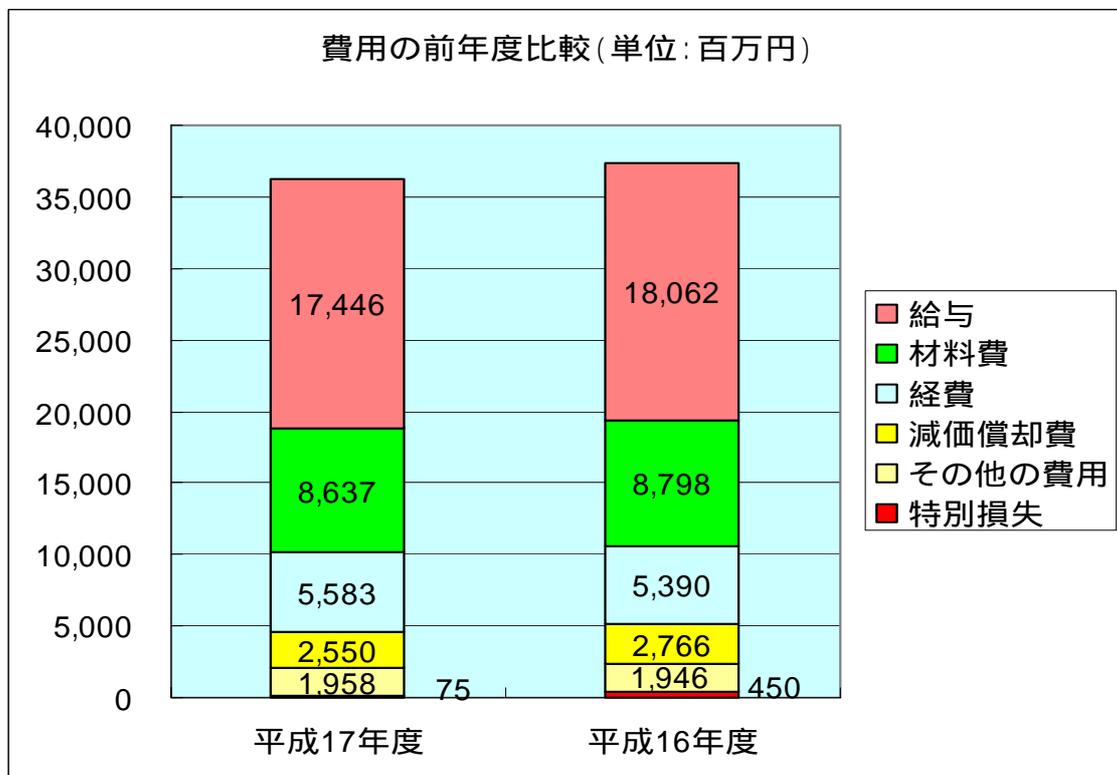
(単位: 百万円)

区 分	平成17年度	平成16年度	増減額	増減(%)
医業収益	26,202	26,180	22	0.1
医業費用	34,365	35,160	795	2.3
医業収支	8,163	8,980	817	9.1
医業外収益	8,630	8,772	142	1.6
うち負担金交付金	8,333	8,512	179	2.1
医業外費用	1,808	1,801	7	0.4
医業外収支	6,821	6,971	150	2.2
経常収支 +	1,342	2,009	667	33.2
特別利益		10	10	皆減
特別損失	75	451	376	83.4
損益(欠損金)	1,417	2,450	1,033	42.2

収益の前年度比較 (単位: 百万円)



費用の前年度比較 (単位: 百万円)



(2) 資本的収支の状況

資本的収支とは、その効果が次期以降に及び病院の建設改良など施設整備に係る収支である。

平成17年度の主なものは、循環器病センターの新治療棟建設、がんセンターの病院情報システム（電子カルテ）整備などである。

収入決算額は31億3,300万円であり、前年度と比較すると他会計負担金が3,100万円増加した。

また、支出決算額は40億9,200万円であり、前年度と比較すると建設改良費が5,800万円、企業債償還金が9,100万円増加となった。

この結果、資本的収支は9億5,900万円のマイナスとなり、損益勘定留保資金をもって補填した。

資本的収支

(単位：百万円)

区 分	平成17年度	平成16年度	増減額	増減(%)
企業債	1,492	1,495	3	0.2
他会計負担金	1,625	1,594	31	1.9
国庫補助金	6	8	2	25.0
その他	10	10	0	
収入計	3,133	3,107	26	0.8
建設改良費	1,764	1,706	58	3.4
企業債償還金	2,247	2,156	91	4.2
その他	81	85	4	4.7
支出計	4,092	3,947	145	3.7
収支差	959	840	119	14.2

(3) 損益勘定留保資金残高

損益勘定留保資金とは、収益的収支における費用のうち、減価償却費など、現金の支出を必要としない費用の積上げであり、資本的収支の不足額は、これをもって補填している。

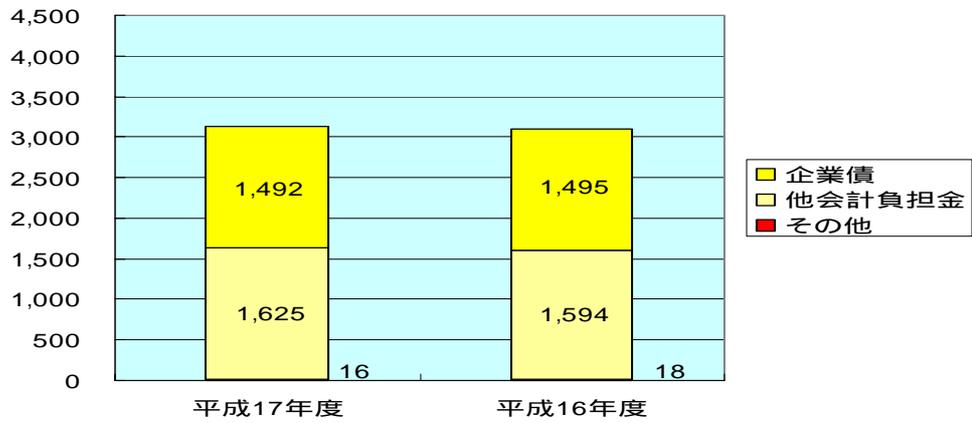
17年度末の損益勘定留保資金の残高は、前年度末より2億4,000万円増加し、18億7,900万円となった。

損益勘定留保資金の残高

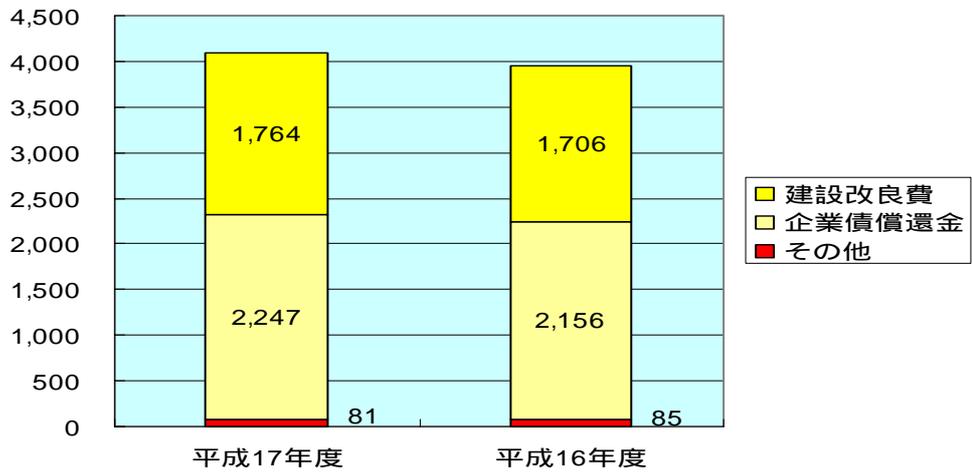
(単位：百万円)

16年度末残高	17年度発生額	17年度補填額	17年度末残高
1,639	1,199	959	1,879

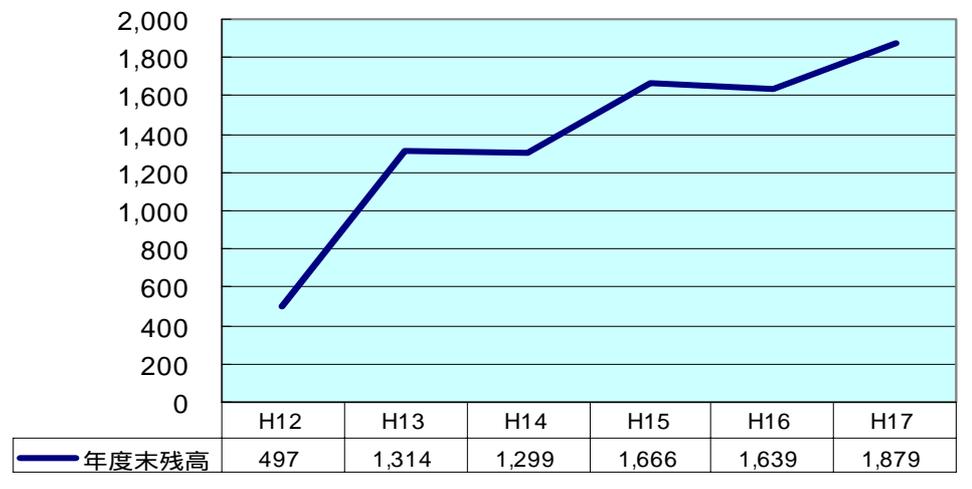
資本的収入の前年度比較(単位:百万円)



資本的支出の前年度比較(単位:百万円)



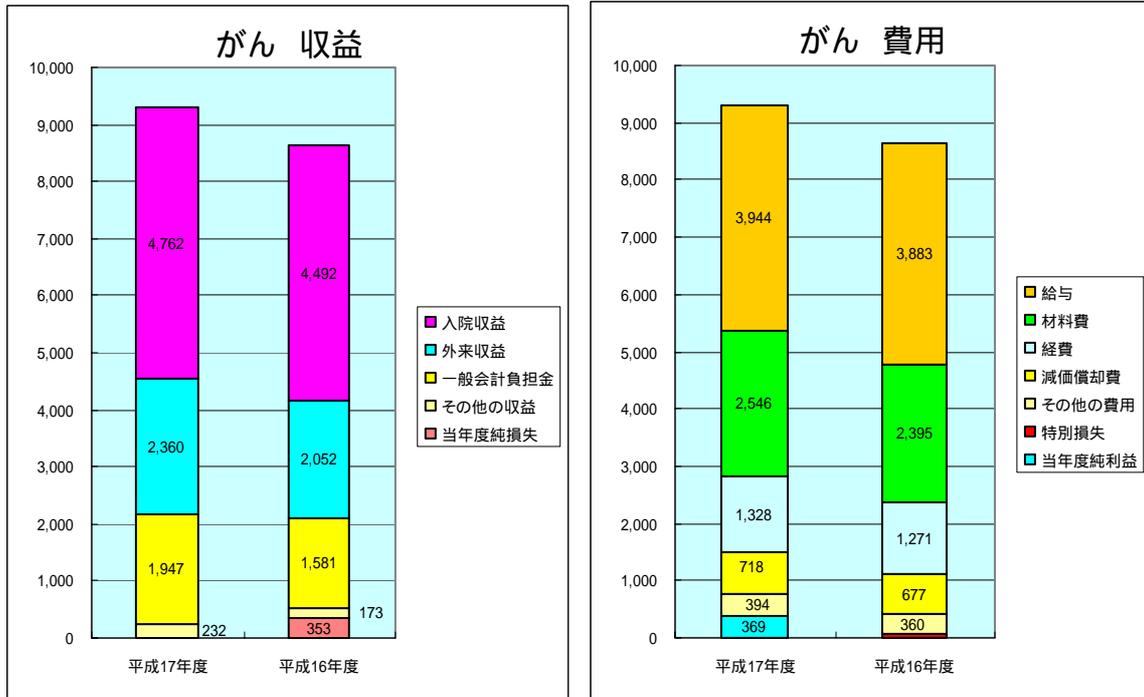
損益勘定留保資金の推移(単位:百万円)



病院別の収益・費用の前年度比較（単位：百万円）

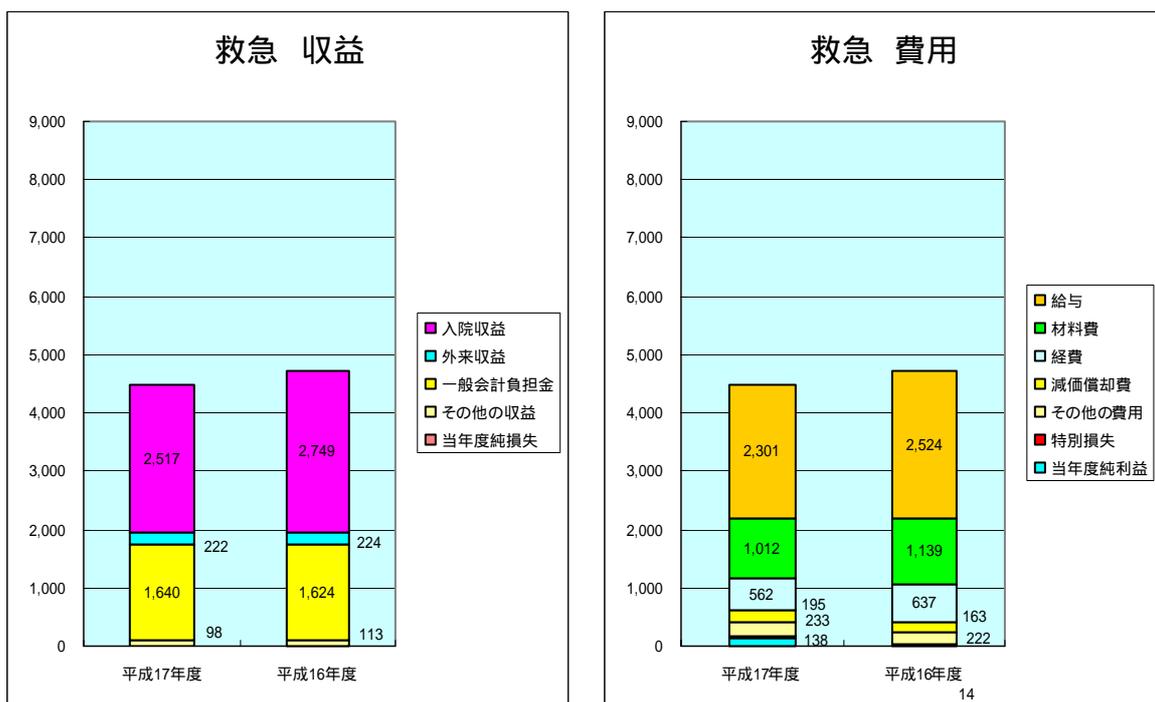
がんセンター

在院日数を短縮し、病床利用率を上げたことで、入院患者が増加した。また、予約外の外来患者を積極的に受入れて外来患者も増加した。この結果、入院・外来とも収益が増加した。



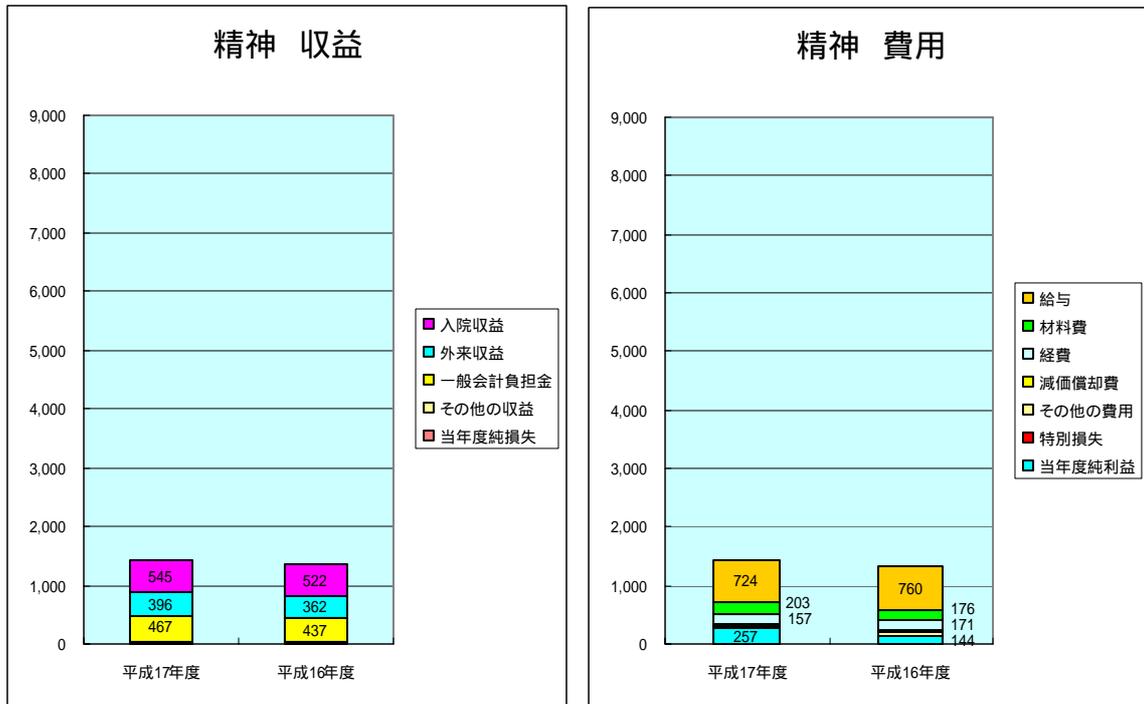
救急医療センター

年度前半において、看護師の配置人数に不足が生じ、ICUの利用制限を行ったため入院収益が減少した。



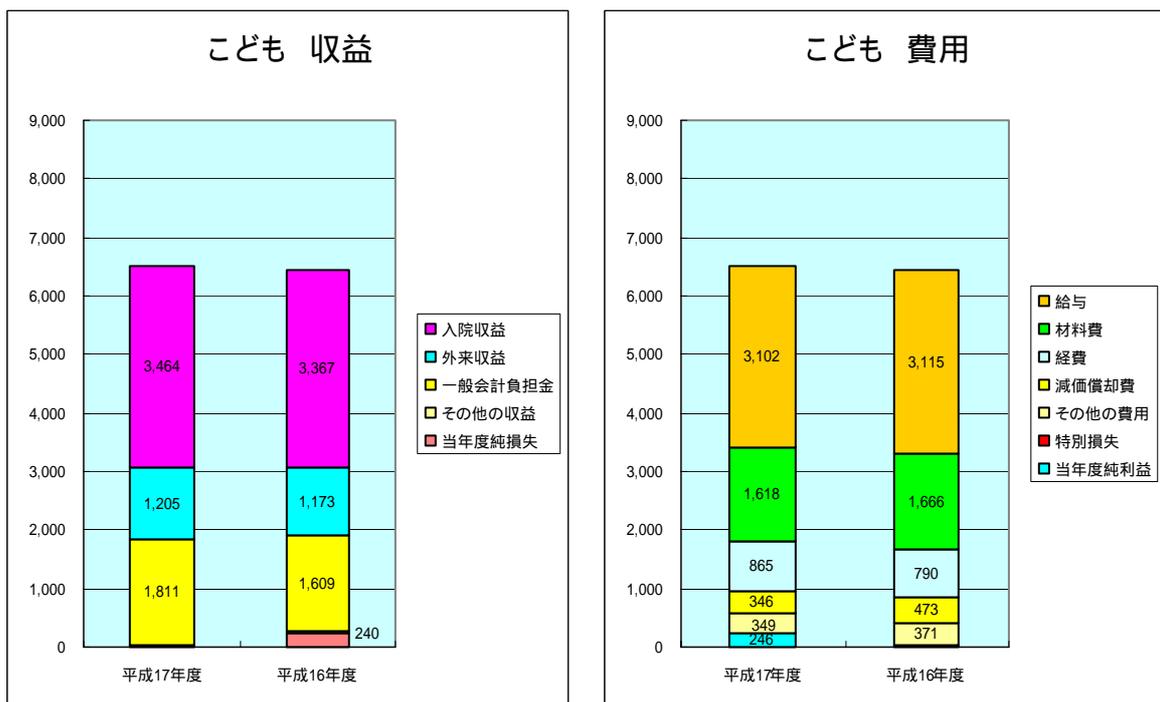
精神科医療センター

患者の増加及び急性期割合の増加により収益も増加した。



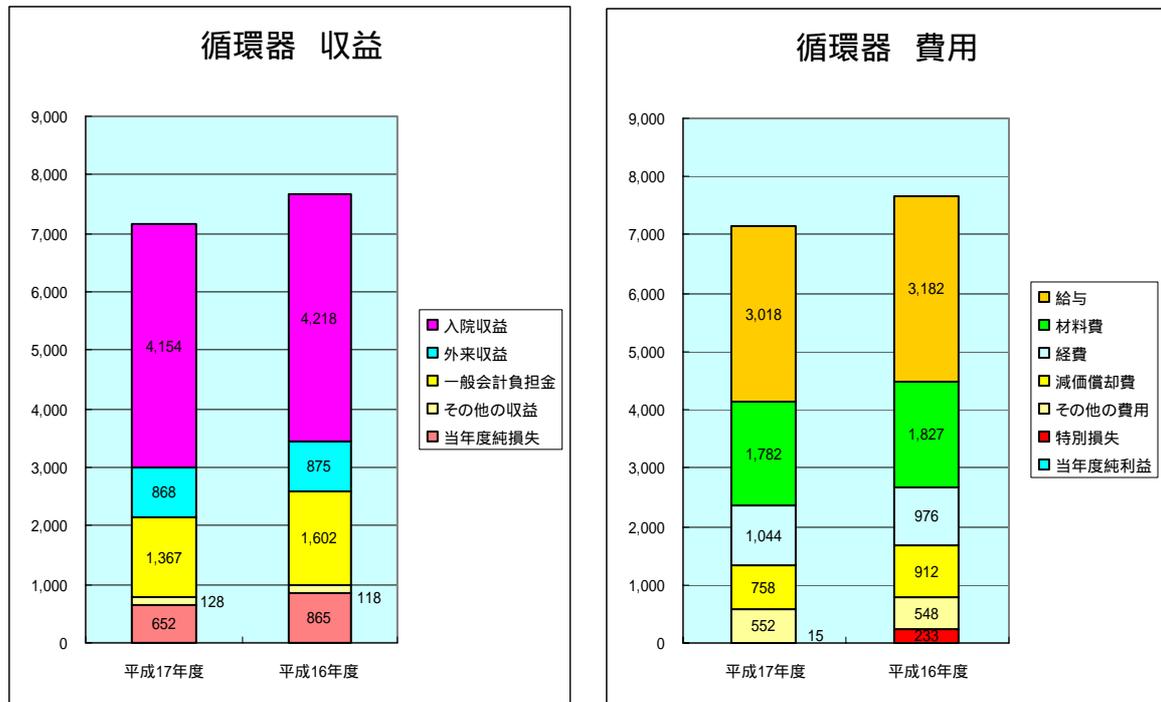
こども病院

在院日数を短縮し、新規患者を多く受入れた結果、収益が増加した。



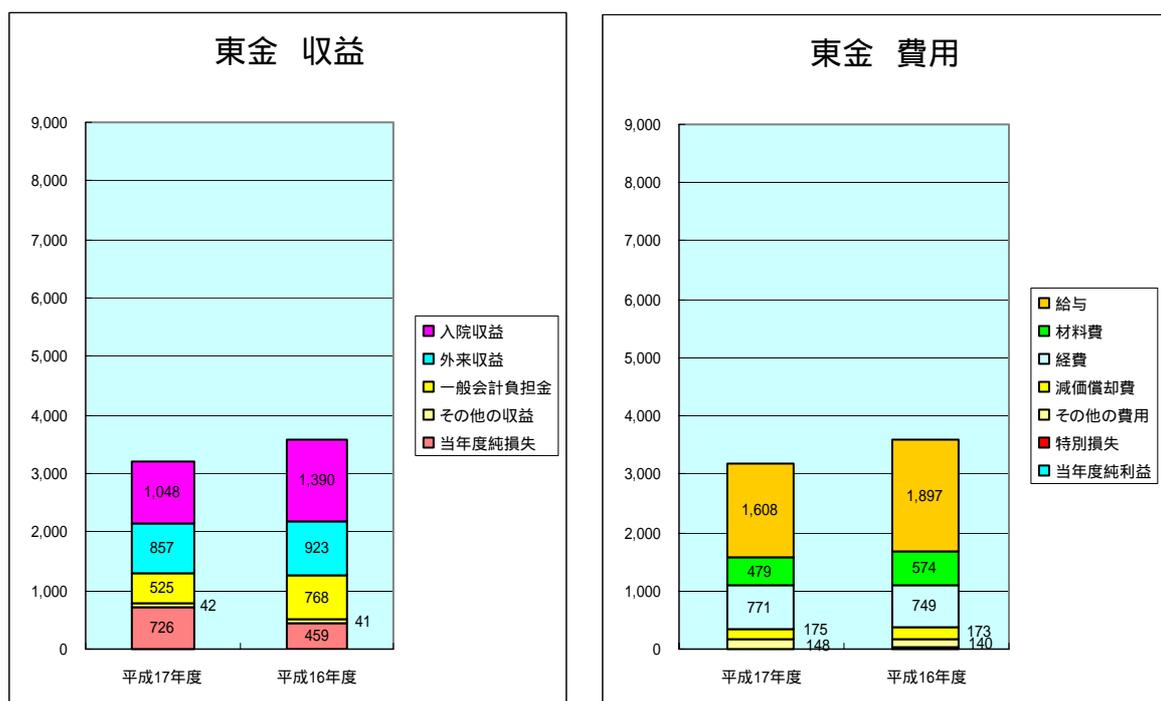
循環器病センター

脳神経外科、循環器科など高度医療部門で患者の増加があったものの、整形外科、呼吸器科などで診療体制の縮小があり、総合すると収益が減少した。



東金病院

内科、消化器科、循環器科、整形外科、呼吸器科などで診療体制の縮小があり、収益が減少した。



佐原病院

脳外科、小児科、内科などで診療体制の縮小があり、入院収益が減少したものの、整形外科、泌尿器科において外来患者が増加して外来収益は増加した。

